

平成 27 年度 入学者選抜試験問題

100 点
50 分

国 語

実施日時：平成 27 年 1 月 22 日（木） 9:00～9:50

*下記の〈注意事項〉をよく読み、監督者の指示を待ちなさい。

〈注意事項〉

— 開始前 —

1. 監督者の〈開始〉の指示があるまで、この問題冊子の中を開けない。
2. 解答用紙には、解答欄のほかに下記の2つの記入欄がある。その説明と解答用紙の「注意事項」を読み、2項目の全てに記入またはマークする。
 - ・受験番号欄 上段に受験番号を記入し、下欄にマークする。
 - ・氏名欄 氏名・フリガナを記入する。
3. 解答用紙に汚れがある場合には、挙手で監督者に知らせる。
4. この表紙の受験番号欄に受験番号を記入する。

— 開始後 —

1. 問題は4ページから18ページまでの各ページに印刷されており、第1問～第2問の2題で構成されている。
開始後確認してページの落丁、乱丁、印刷不鮮明等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
2. 解答は全て解答用紙の所定の欄へのマークによって行う。たとえば、

3

と表示のある問いに対して2と解答する場合は、次の〈例〉のように解答番号3の解答欄②をマークする。

〈例〉

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
3	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

3. マークする際はHBの鉛筆でマーク欄を適切にマークすること。
4. 質問等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
5. 試験開始後30分間および試験終了5分前は退出できない。

受験番号				

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

少し前に、同僚から、自己決定について何か話してくれと頼まれました。しかし、以前から私は、この「自己決定」というのはやり言葉にある種の違和感を抱いていました。そこでまず、その違和感の出所を探ることにしました。アリストテレスの用語に、正確に言えば、「自己決定」に当たるものはないと考えられます。「自分自身による」というような言い方が何度か出てくるだけです。恐らくは、このあたりにヒントがあるのではないかと思いました。よく知られているように、アリストテレスは実に数多くの哲学用語を作りましたが、実は作り損ねたものもあると、アンスコム (Elizabeth Anscombe, 1919-2001) は言います。彼女によると「プロアイレシス *prohairesis*」がその一つです。この語は普通「選択」と訳されます。たぶん、誰も「選択」を専門用語とは思いませんが、実は、アリストテレスにはそうするつもりがあつたかも知れないというわけです。

アリストテレスは、意志の弱さ (ギリシア語で「アクラシア *akrasia*」と言います) に基づく行為というのは、①強制されたものではなく、自発的にしたものであつて、しかも、②行為者 (行為する当人) は何をするかを知っていて、意図的にそうしようとしたものである、そして、③他の誰でもなく、自分自身による (自己決定した) ものではあるのだが、④選択された行為ではないと言います。(a)、行為に関して、①自己責任、②意図性、③自己決定、この三つが揃っていても、④選択された行為とは見なさない、そうアリストテレスは言っていることになると思います。では、選択された行為であるための条件とは何なのでしょう。選択という概念に、アリストテレスは何か重い荷物を背負わせたかったのでしょうか。

私は、その荷物について考えているうちに、③と④の間に横たわる溝に、いささか私の手に余る大きな問題が隠されていると思うようになりました。以下は、その問題が何であるかを明らかにしようとする試みの、荒々しい略図です。私たちは以下で、枠組みにおいては基本的にアリストテレス的と言える、しかし、⁷⁾キトにおいてはもう少しだけ壮大かも知れない、形而上学的な試みと、しばらくの間格闘することになるのですが、結局はそれが、^A自己決定といういくらか気楽な概念の正体を暴くための、そしてまた、意志の弱さという⁸⁾ヤツカイな現象を位置づけるための、唯一のものではないかも知れませんが、一つの仕方ではあるように思われます。

私たちは恐らく、③と④に関して無差別、あるいは、③と④の違いに無⁹⁾トンチャクなのだと思えます。要するに、私たちは、意志の弱さによる行為であつても、そうではない (その対極にあるような) 行為であつても、同じように「自己決定による行為」だと言っているのではないのでしょうか。アリストテレスは、それは変だと言うのです。

飲んではいけないと知っているのに飲んでしまう。取り乱してはいけないと知っているのに取り乱してしまう。これが意志の弱さ(アクラシア)の例です。「知っている」ではなくて「思っている」とすべきではないかというようなこまごました話は、とりあえず無視します。もつと大づかみにつかむことから始めましょう。

ところで、[『]アクラシアによる行為は選択された行為ではないというの、ある意味ではひどく簡単なことです。なぜなら、アクラシアというのは、選択されようとした行為が何か他にあつて、その行為は選択されようとしたのだが、実際には選択されなかった(結局は、為されなかった)、そして、別の行為(アクラシアによる行為)が為された、ということだからです。その別の行為というのは、改めて選択し直された行為ではないかと、ここで人は言いたくなるかも知れません。しかし、それなら、行為者本人が自分の意志の弱さを嘆くことはない、ということになります。行為者本人が自分の意志の弱さを嘆くというのは、自分が選択した(実際には、選択しようとした)行為を、他の誰のせいでもなくて、自分の(意志の弱さの)せいで、結局は実行しなかったからではないでしょうか。

自分の弱さを嘆くというのは、若い学生諸君であれば、かえつて好ましく思えることがあります。いい歳をした教師が同じことを言くと、場合によっては[『]イナオつていのように聞こえたりします。自分の弱さを自分で意識するというのは、自分自身のあり方について、自分自身がどうあるべきかについて、規範性を意識することであり、その上で、自分が何らか規範にもとるということを認めることだと思えます。若い人たちの場合には、向上する可能性があるから、自分の弱さを嘆くのを聞いた場合に、その分だけ好ましく思えるのだと思えます。それに対して、可能性がない者が嘆いて見せる場合には、白々しく聞こえるばかりだということでしょう。

規範性と可能性ということを言いましたが、私たちはここで、「(甲)」という概念を必要としているように思われます。これは恐らく、非常に重要なことです。私たちは、生まれ落ちるとすぐに、走り回れるわけではないし、ましてや、話せるわけでもありません。立ち上がるのにも時間がかかるし、立ち上がって歩けるようになってからも、いつまでたつてもまともに他人とつきあえるようにならないかも知れない、というような存在です。ところで、この場合、自然的存在(人類の唯一の生き残りである私たちは自然種ホモ・サピエンス・サピエンスと呼ばれる自然的存在です)としての成熟と人間としての成熟を区別した方がよいと思えます。仮に自然的存在として十分成長し成熟したとしても、人間的には未熟であるということは、特に珍しいことではないからです。私たちは、本当にいるんな可能性を持って生まれてくるわけですが、実際に使える能力として実現できる能力というのは、ごく限られていますし、実現するのに、ひどく時間がかかります。たとえば、自分の考えに従って、目的の実現を目指して意図的に行為する能力というのも、実現可能な能力の一つではありますが、時間をかけずに一挙に実現できるものではありませんし、範囲や程度に関しても限りなく実現できる

ようなものではありません。

そして、成熟というものは、自然的なそれであろうと人間的なそれであろうと、何らかの仕方を目指されるものだと思います。自然的成熟の場合は、それを目指す意識のようなものは、特に必要ないでしょう。自然的なそれを目指す自然的な仕組みというものが、何らかすでにでき上がっていると考えられるからです。(b)、人間的な成熟の場合は、意識することがどうしても必要になると思います。人間的な成熟を「目指す」というのは、^(a)イデント的・自然的なできあいの仕組みがすでにあつて、私たちは自然にそうするようになるというようなものではなくて、もともと、自分からそうする以外にないという意味で、自発的なものだからです。そして、私たちが自分の弱さを認める、規範性を意識するというのは、一言で言ってしまうと、合理性に対する(合理的であれとする)社会的要求に答えようとするのだと思います。この要求は誰に対しても、恐らくは同じように、突きつけられるのですが、それに応えるかどうか、そしてどう答えるかは、結局は一人ひとりの問題です。一人ひとりが自ら、自分で答えを出す以外にない問題だと思います。

合理性の要求は社会的なものだと言いましたが、それは、一つには、規範の存在がそもそも社会的なものだからです。私たちは、小学校に行くようになる頃から、社会規範を少しは意識する(あるいは、少しは意識するようにさせられる)ようになります。(c)、泣いたり叫んだりわめいたり、そういう酔っぱらいがするようなことをして、ひたすら我を通す、そういうことを、少しは控えるようになります。

しかしながら、合理性の要求というものは、本来は、もっと内在的な由来を持つものだと思います。目的の実現を目指して、自分の考えに従って、意図的に行為するという、人間として最も基本的と言えるあり方。これが、本来の、要求の出所だと思います。社会的規範というものは、私たちがこの世に生まれてきてみると、私たちの外部に、すでに存在しています。しかし、そのような規範というものは、はじめから存在したわけではありません。はじめにあったのは、そして、今でもあると考えられるのは、私たちのあり方にとつて何らか「内在的な要求」と言えるようなものだと思います。

ところで、私たちはもはや、自然的欲求とか自然的感情に従って、単純に生き延びることとか子孫を残すこととか食料を確保することというような、自然的目的とでも言うべきものの実現を目指すだけの、自然的な存在ではありません。あるいは、自然的存在ではあるのですが、単純に自然的欲求とか自然的感情に従って、自然的目的の実現を目指すだけの存在であるというわけではありません。私たちは、何のために、なぜ、どうするのがよいか、いちいち「考える存在」です。考えない人もいますが、権利的には、あるいは可能性としては、誰でも「考える存在」です。

(1) 考えるというのは、理由に基づいて、正しく(ということとは、推論規則が存在することなど知らなくても、推論規則に従って)考える、推論するということでしょう。(2) 合理性の能力を実現するというのは、もちろん、この推論能力の実現を含むものだと思いますが、それがすべてというのではないように思われます。(3) それは、正確に言えば、目的の実現を目指して、自分の考えに従って、意図的に行為するということ、その全体に関わる能力を実現することだと思えます。(4) それは、目的の設計を含む、計画性に関わる能力の全体、あるいは、組織の運営能力を含む、計画を実行するための実践的能力のすべて、そういったものを実現することを意味するのだと思います。(5) それが、私たちが合理的であるとか理性的であるということの、本当の意味だと私は考えます。このことについては、後で、もっと詳しくお話しするつもりです。

私たちの祖先に当たる人々は、最初は、類人猿の仲間たちが今でもしているように、小さな集団を作って、自然的世界に生きていたと考えられます。しかし、どの時点からか、①私たちの祖先に当たる人々は大量団体化して、きわめて複雑な社会を作り、②先のことを考えて、全体としては計画的に、時にひどく無計画に、行為することを特徴とする、そういう存在になりました。正確にいつのことかというのは、なかなか決めがたいようですが、とにかく、そう遠くはない、数万年前のある時点から、そういう存在になったと考えられます。私たちは、そのような、社会性と(乙)を実現するための能力を必要としています。そして、それが要するに、合理性の能力である。そう私は考えます。

その合理性の能力というのは、感情とか欲求の能力とはぜんぜん別の、たとえば計算能力のような独立した能力ではないと私は思います。恐らくは、次のように考えるべきでしょう。それは、感情とか欲求の能力と統合された能力であり得る、しかし他方では、統合されないこともあり得る、ある全体的な能力のことである。理性的であるとか理性的でない、あるいは、合理的であるとか合理的でないということ、人について言うのは、実は人のあり方全体について言うことであって、人の特定の能力について言うことではない。そういうふうに考えるべきだと私は思います。

(出典 岡部勉『合理的とはどういうことか』より)

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分に漢字に直す場合、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、(エ) 、(オ)

- (ア) キト ① 凶 ② 戸 ③ 途 ④ 都 ⑤ 止
(イ) ヤツカイ ① 会 ② 界 ③ 介 ④ 解 ⑤ 回
(ウ) トンチャク ① 団 ② 頓 ③ 遁 ④ 沌 ⑤ 屯
(エ) イナオって ① 居 ② 意 ③ 衣 ④ 囲 ⑤ 鑄
(オ) イデン ① 違 ② 遣 ③ 移 ④ 遺 ⑤ 緯

問二 空欄(甲)、(乙)を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は(甲) 、

(乙)

(甲)

- ① 規範性 ② 可能性 ③ 成熟 ④ 自然的存在 ⑤ 人間

(乙)

- ① 計画性 ② 合理性 ③ 理性 ④ 規範性 ⑤ 推論能力

問三 本文中の(a)～(c)に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は(a) 、(b) 、(c)

- ① しかし ② ところで ③ 要するに ④ むしろ ⑤ そして

問四 傍線部A「自己決定といういくらか気楽な概念」でなぜ自己決定という概念が「いくらか気楽」と形容されているのか。その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 11

- ① 自分の行為を自分で決定することは簡単だから。
- ② 意志が弱くても自己決定によって克服することは容易だから。
- ③ 自己決定による行為などというものは本来不可能だから。
- ④ 自己決定ということを主張する人に限って意志が弱いことが多いから。
- ⑤ 意志の弱さによる行為もそうでない行為も一緒くたにしてしまうから。

問五 次の一文は、本文中の(1)～(5)のどこに入るのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 12

あるいは、恐らくは、それが中心だというのですらないでしょう。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問六 傍線部B「アクラシアによる行為は選択された行為ではないというのは、ある意味ではひどく簡単なこと」である理由の説明

として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 13

- ① 意志の弱さによって簡単に選択できなくなるから。
- ② アクラシアによる行為を選択するのは簡単だから。
- ③ 自分の意志の弱さを嘆くことになるから。
- ④ 改めて選択し直された行為であると言えるから。
- ⑤ 選択しようとした行為とは別の行為がなされることになるから。

問七 傍線部Cの「そういうふう」を具体的に説明しているものとして最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。解答

番号は 14

- ① 合理性の能力は計算能力ではない。
- ② 「理性的」「合理的」という特徴づけは人間全体のあり方を問題としている。
- ③ 合理性の能力は感情や欲求の能力ではない。
- ④ 合理性の能力は社会性を実現する能力である。
- ⑤ 合理性の能力は人間の内在的要求である。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 15

- ① アリストテレスによる意志の弱さに基づく行為の説明には大きな欠点がある。
- ② 合理性に対する社会的欲求にどう答えるかは、一人一人が考えるほかない問題である。
- ③ 若いうちは自分の弱さを嘆くのもよいが、いい歳をした大人がそのようなことをするべきではない。
- ④ われわれの先祖が大集団化してきわめて複雑な社会を形成する前から合理性の要求は存在した。
- ⑤ われわれ人間は自然的目的の実現を目指すだけの自然的な存在だと言える。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私たちがことばを発するとき、必ずと言っていいほど省略する要素があります。省略、というよりは、もともとと言わないのが当然、という要素があります。それは、そのことばの「表現意図」です。相手にどうしてほしいと思つて発言するのか、ということなのです。

典型的な例で説明しましょう。上司と部下とが、2人で部屋の中で仕事をしています。ふと、上司が「今日は暑いねえ」と、ぼつり言います。この時、上司は、「暑いねえ」という発言に何らかの表現意図をこめています。それは、⁽⁷⁾「タンジユン」に「自分に同意してほしい」ということかもしれません。あるいは、「暑さの話をして、部下と親密なコミュニケーションをはかりたい」ということかもしれません。ことによると、「冷房の温度をもつと下げてほしい」ということかもしれません。とにかく、部下に何か働きかける目的がなければ、上司はことばを発しません。この目的のことを「表現意図」と言います。

表現意図は、ふつうは、ことばの表面には表れないものです。

「あー、君に同意してもらいたいと思つて言うんだが、今日は暑いねえ」

「たまには仕事以外のことで君と親しく語りたから言うけれども、今日は暑いねえ」

「冷房を⁽¹⁾チヨウセツしてもらいたいのので、私はあえて言いたい。今日は暑いねえ」

などという話しかたをする人はいません。人と話をするとき、表現意図はいちいち言わないものです。

人は、必ず何かの表現意図をもってことばを発します。にもかかわらず、その意図はふつう明示されません。となると、ことばの受け手が送り手の表現意図を誤解するかもしれないことは、言うまでもないでしょう。

表に出たこない表現意図をテーマにした典型的な物語は、落語の「京の茶漬け」です。

京都では、客が帰ろうとした時、「まあ、もうお帰りですか、ちよつとお茶漬けでもいいかがどす」と引き止めると言います。これはあくまでお愛想で、べつに「あなたにご飯を食べて行ってほしい」という表現意図はないのです。ふつうは、客のほうもそれは分かつていて、「いえいえ、また今度」と言つて、そのまま帰ります。(1)

(a) 落語には、その茶漬けを食べてみたいと考える大阪人が登場します。帰り際に勧められたのをいいことに、「ではごちそうになりましょう」と、本当に茶漬けをごちそうになります。2杯目が欲しくなった客でしたが、さすがに直接的には要求できません。そこで、おかみさんに空の茶わんを見せて尋ねます。

「どこでお買い求めになりました?」

おかみさんもさるもので、おひとつの底を見せて、

「これと一緒に、その荒物屋で買いました」

と言うのが落ちです。わざわざ解説をするのはやばですが、このことばと身ぶりで双方が伝えようとしているのは、「もう一杯ください」「もうご飯がありませんので、帰ってください」ということです。その表現意図を表に出さず、「どこでお買い求めに?」「その荒物屋で」と、xをしているのがおもしろいのです。

京都人の例ばかり出しましたが、大阪人もなかなか意図を測りかねる表現をします。

毎日新聞記者の近藤勝重さんによれば、大阪人が頼みごとをするときに、本当は急いでいるのに「急せえて急かんようなもんやけど」と言うのだそうです。(『毎日新聞』夕刊2007年6月20日 2面)。これは、ちよつと直訳しにくいことばです。「そう急ぐことではないけれど、できれば急いでほしい」と、前半と後半とで相矛盾したことを言っています。もちろん、力点が置かれているのは、「急せえて(＝急いでほしい)」のほうで、聞き手はそれを感じ取らなければなりません。

大阪人と言えど、商売で拒絶するときに、「考えときまっさ」と表現するのは有名です。京都でも言うようですが、本場と思われるのは大阪のほうです。(2)

山下好孝さんの『関西弁講義』(講談社選書メチエ)によると、大阪人が「考えさしてもらいまっさ」と言えば、商売成立の可能性はまだあります。一方、「考えときまっさ」と言えば、答えはほぼ「ノー」であるということです(125ページ)。「さしてもらう」がつくかつかないかで、表現意図が正反対になります。こんなことは、大阪弁ネイティブでなければ分からないでしょう。

(b)、外国人との交渉では、表現意図はますます伝わりにくくなります。中国人の日本語研究者、彭飛さんは、こんな話を紹介しています。

〔上略〕大阪府内のある市議団が訪中したとき、石を売り込もうという相手側への返事が「考えときまひよ」。大阪でなら「断る」に近い表現だが、通訳は「考えてくれる」と理解して「OK」と訳した。これが後でこじれ、結局友好のシンボルに一つの大きな石を買い入れ、公園に置くことになった。これはまさしく「考えときまひよ」のシンボルである。

(彭飛『大阪ことばの特徴』和泉書院13ページ)

通訳の母語が何語かは書いてありませんが、大阪弁でなかったことだけは確かです。それにしても、「考えときまひよ」を、元の発言のニュアンスをうまく生かしつつ訳すなんてことはできるのでしょうか。

京都市人や大阪人にかぎりません。日本人がよく言うせりふで、外国人に誤解されやすいのは、「そのうち」「また今度」だそうです。哲学者の土屋賢二さんは、外国人留学生とのやり取りの様子を書いています。

ある中国からの留学生は、少しでも意味があいまいだとすぐに質問し、うやむやにすることを絶対に許さなかった。わたしが「そのうちまたみんなで食事でもしましょう」と言うと、その学生は必ず「いつですか？」と質問するのだ。だからわたしは、日本語で「またこんど」というのは「一億年以内に」という意味であることを教えなくてはならなかった（また「引越しました。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください」は「近くに来ないでください」という意味だということをお教えなくてはならなかった。

〔週刊文春〕2007年11月29日 81ページ

「そのうち食事でも」という発言の表現意図をあえて説明するならば、さしずめ、「あなたといつまでも友好的でありたい」ということでしょうか。(ウ)シンアイの情を示していることは確かですが、具体的に、いつ食事をしたいということは求めていません。(3)

ジャーナリストの手嶋龍一さんと評論家の坂東眞理子さんは、この言い方に対して批判的です。手嶋さんはこれを「コンメシ」と表現します。

手嶋 僕は、いわゆる「コンメシ(今度飯でも)」だけは絶対にいわないようにしているんです。僕の知っているきちんとした方々は、やはり絶対にいわない。仮にいったら、必ず実行する。

坂東 私も昔、先輩から「そのうち飯でも食おうか」といわれて楽しみにしていたのにいつまでたっても誘われなくてがっかりしたことがあります。繰り返されるうちにリップサービスだと気付き、その人のことを信頼できなくなりました。

〔週刊ポスト〕2007年5月18日号 49ページ

似たような言いかたで、小林信彦さんの嫌いなのは「何かあったら」です。

——そうですか。じゃ、また、なにかあったら、よろしく。／初めはあっさり聞き流したが、(待てよ)と思った。「略」一九六〇年代半ばより前は、こういう言葉づかいを編集者はしなかった。「略」こんなに失礼、かつ大ざっぱな言い方はしなかった。

(小林信彦『人生は五十一から』文春文庫 37ページ)

私も、小林さん同様、この言いかたにはあまりいい(エ)インシ|ョウ|を持ちません。「何かあったら」は、「今度飯でも」よりもなおそっけないように感じられます。(4)

相手に自分の意図を伝えたいけれど、それをはつきりしたことばにできず、苦悩することがあります。典型的なのは、愛を告白したときです。「あなたのことが大好きです」と率直に打ち明けて、それがいつも受け入れられるのならいいのですが、あっさり拒絶されないともかぎりません。そこで、「あなたと親しくになりたい」という意図は、えてして(甲)なことばで表現されます。

夏目漱石が「日本人は『あなたが好きです』とは言わないものだ」と語った、という話は有名です。もつとも、この出典は明らかでなく、事実かどうかは分かりません。ある時、NHKのクイズ番組では次のように紹介されていました。

これは漱石研究家の間ではよく知られる(オ)イツワのひとつ。夏目漱石が英語教師をしていたときのことでした。「I love you」を「あなたを愛しています」と直訳した生徒に対し、「そういうときは『月がきれいですね』と言いなさい。日本人にはそれで通じる。」そうたしなめたんだそうです。

(NHK「クイズモンスター」2008年2月16日放送)

私たちはみな、(乙)、相手のことばの後ろにある表現意図を推測しながら会話をしています。これは、まさしく「推測」するしかないものです。「今の発言はこういう意図で言ったんですか」などといちいち尋ねるわけにはいかないし、それは失礼にもなります。(c)、もし尋ねても、相手が正確に答えてくれるとは限りません。

相手のことばそのものは、注意深く聞けば完全に理解できますが、相手の心を完全に理解することはできません。

この動かしがたい事実に気づいた人の中には、深く悩む人もいます。たびたび登場願った夏目漱石の作品から例を引きましよう。主人公の兄は、自分の妻の心を疑いはじめ、彼女の心が分からないといって苦しみ抜きます。主人公は、〈御前他の心が解るかい〉と聞く兄に対して、次のように答えます。

「兄さんに対して僕がこんなことをいうと甚だ失礼かも知れませんがね。他の心なんて、いくら学問したって、解りっこないだろうと僕は思うんです。兄さんは僕よりも偉い学者だから固より其処に気が付いていらっしやるでしょうけれども、いくら親しい親子だつて兄弟だつて、心と心は只通じているような気持ちができるだけで、実際向うと此方とは身体が離れている通り心も離れているんだから仕様がないうちありませんか」

(夏目漱石『行人』新潮文庫 125ページ)

相手の心を理解したいと苦しむ兄と、そんなことは不可能だとしてこだわらない弟とは、考え方が正反対です。おそらく、作者の漱石の心中でも、2つの相反する考えかたがぶつかっていたのでしよう。

この話を本章の内容に引きつけて言えば、会話をしている相手の表現意図が自分には分かる、と思ひ込むところから、猜疑心も生まれるし、誤解も生まれるのでしよう。「相手は邪悪な意図で質問をしているに違いない」「相手は自分に皮肉を言っているに違いない」「相手は自分を嫌っているに違いない」と、向こうの表現意図を勝手に「推測」して、怒ったり、絶望したりしているのが、私たちの日常です。(5)

この苦痛から逃れるためには、『行人』の主人公のように、「どうせ人の心は分からないんだ」と達観することもひとつの方法です。相手の発言を素直に受け取り、その発言の裏に何があるかなんて、いちいち詮索しなければ、まことに気楽に生活ができます。

とはいえ、相手の発言を文字どおりばかり受け取る人は、これまた、「皮肉が通じない」「察しが悪い」と見なされ、批判の対象になります。2007年頃に流行した「KY」(空気が読めない)ということばも、察しの悪さを批判するものです。相手の意図を推測しても、推測しなくても、どっちの方向に進んでも、うまくいきません。

まことに、『いごぼはちしからで、誤解とは切つても切れないものです。』

(出典 飯間浩明『ことばから誤解が生まれる 「伝わらない日本語」見本帳』より)

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分に漢字に直す場合、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、(エ) 、(オ)

- | | | | | | | |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| (ア) | タンジュン | ① 順 | ② 純 | ③ 準 | ④ 循 | ⑤ 准 |
| (イ) | チヨウセツ | ① 説 | ② 設 | ③ 節 | ④ 接 | ⑤ 折 |
| (ウ) | シンアイ | ① 親 | ② 新 | ③ 心 | ④ 真 | ⑤ 信 |
| (エ) | インシヨウ | ① 証 | ② 章 | ③ 承 | ④ 象 | ⑤ 衝 |
| (オ) | イツワ | ① 逸 | ② 一 | ③ 寓 | ④ 挿 | ⑤ 異 |

問二 本文中の(a)～(c)に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は(a) 、(b) 、(c)

- ① まして ② それに ③ たとえば ④ だから ⑤ ところが

問三 空欄(甲)、(乙)を補うのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は(甲) 、

(乙)

- (甲)
- ① 典型的 ② 間接的 ③ 直接的 ④ 積極的 ⑤ 消極的

- (乙)
- ① 大なり小なり ② 五十歩百歩 ③ 耳をそろえて ④ 胸をふくらませて ⑤ 高をくくって

問四 空欄 X に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 26

- ① 皮肉の応酬
- ② 器に造詣が深いことの自慢
- ③ 心の中とは関係のない話
- ④ 申し訳ないという謝罪
- ⑤ 思ったことを素直に表現

問五 次の一文は、本文中の(1)～(5)のどこに入れるのが最も適当か、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 27

「何かないかぎり、あなたとはもう会いますまい」と言っているように聞こえるのです。

- ① (1)
- ② (2)
- ③ (3)
- ④ (4)
- ⑤ (5)

問六 傍線部 A 「この動かしがたい事実」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28

- ① 相手が表現意図を質問しても答えてくれないこと
- ② 相手のことばを完全に理解できないこと
- ③ 大阪弁の表現意図を訳すことが難しいこと
- ④ 相手の心を完全に理解することができないこと
- ⑤ 日本人は愛していると直接的には言わないこと

問七 傍線部B「ことばはやつかいで、誤解とは切っても切れないもの」なのはなぜか。その説明として最も適当なものを①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 29

- ① ことばは必ず心とは裏腹に発せられるものだから。
- ② 表現意図はことばには表れないから。
- ③ 京都市人や大阪人は一般には分かりにくい表現をするから。
- ④ 日本語は外国人にとってはわかりにくい表現だから。
- ⑤ 察しが悪い(空気が読めない)と批判されるから。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 30

- ① 人と話をするときには、誤解をさけるために表現意図をきちんと説明しなくてはならない。
- ② 日本語のあいまいな表現は、外国人にとってわかりにくいものであるから、適切な表現方法をとるべきである。
- ③ 会話をしている相手の表現意図を分かると思い込むところから猜疑心や誤解が生まれる。
- ④ 落語のおもしろさは、表に出でこない表現意図を、ことばと身ぶりで伝えることができるところにある。
- ⑤ 相手の心がわからないという苦悩から逃れて、相手の発言を素直に受け取れば、人から批判されることもない。